

# 教育研究業績書

2018年11月21日

所属：心理・社会福祉学科

資格：准教授

氏名：中尾 賀要子

研究分野	研究内容のキーワード
老年ソーシャルワーク、マイノリティー支援、災害福祉	在米被爆者、福島支援、ライフレビュー、ナラティブ分析
学位	最終学歴
PhD (Social Welfare), MSG (Gerontology), MSW (Social Welfare)	University of California, Los Angeles, School of Public Affairs, Department of Social Welfare

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要

<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. インターネットを活用した学習を促進する取組み	2010年～現在	一人一台のパソコンを活用した授業を実施しており、授業内でのμ Camを使った課題提出や小テストを実施している。またインターネット検索エンジンと統計ソフトといった複数の媒体を同時に用いながらの双方向授業を展開している。
2. 協働性と主体性、及び公平性を育成する授業実践	2010年～現在	社会福祉現場で必要不可欠な協働と協同の力を養うために3～5人の少人数グループワークを活用している。グループワークの分担や時間配分等も主体的に決定し、その際公平性を心掛けるよう促している。
3. プレゼンテーションスキル向上を意識した授業計画	2010年～現在	プレゼンテーションスキル向上の一環として、小グループ授業では各学生による1分間スピーチを導入している。またさまざまな発表形態を通してプレゼンテーションに対する自信を段階的に獲得させ、人前で話すことに対する苦手意識の克服を目指している。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. μ Camを使った教材の提供	2010年～現在	学習用教材として、授業で用いる多種多様な教材（パワーポイントを使ったスライド、映像、記事等）をクラウドサービスを通して提供している。
2. オンラインデータベースやインターネットを活用した教材	2010年～現在	オンラインデータベースを活用して最新の投稿原著論文を検索し、課題リーディングとして用いている。またインターネットやTV番組といったマスメディアの映像や動画を使い、時事問題に関連した教材作りを心掛けている。
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）講師	2017年07月25日	「兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）」主催「高等学校教員10年経験者教科研修」にて講師 武庫川女子大学 臨床教育学研究所
2. 兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）講師	2016年07月26日	「兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）」主催「高等学校教員10年経験者教科研修」にて講師 武庫川女子大学 臨床教育学研究所
3. 兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）講師	2015年07月23日	「兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）」主催「高等学校教員10年経験者教科研修」にて講師 武庫川女子大学 臨床教育学研究所
4. 兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）講師	2014年07月23日	「兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）」主催「高等学校教員10年経験者教科研修」にて講師 武庫川女子大学 臨床教育学研究所
5. 社会福祉法人全国社会福祉協議会講師	2011年01月17日	「社会福祉法人全国社会福祉協議会」主催「平成22年度社会福祉主事 通信課程 社会福祉援助技術演習」にて担当講師
<b>4 その他</b>		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要

<b>1 資格、免許</b>		
1. 精神保健福祉士実習演習担当教員資格	2013年03月	社団法人日本精神保健福祉士養成校協会
2. 社会福祉士実習演習担当教員資格	2010年12月	社団法人日本社会福祉士養成校協会
3. Guided Autobiography Instructor	2010年06月	The Birren Autobiographical Studies Program (California, USA)
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 兵庫医科大学 臨床研究審査委員会委員	2018年04月01日～2020年03月31日	兵庫医科大学 臨床研究審査委員会における臨床研究の審査
2. 武庫川女子大学 男女共同参画推進室	2016年04月01日～現在	武庫川女子大学男女共同参画推進室における相談業務
3. 武庫川女子大学「女性研究者研究活動支援事業」育児・介護支援部門	2015年04月01日～2016年03月31日	平成27年度「女性研究者研究活動支援事業」育児・介護支援部門リーダーとして本学の育児・介護セミナーの企

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
4. 武庫川学院ワークライフバランスガイドブック編集委員	2014年03月	画運営、ガイドブック作成に着手 「女性研究者研究活動支援事業育児・介護支援部門」及び「男女共同参画推進室」の共同事業として、本学教職員のためのワークライフバランスガイドブックを作成
5. 在ブラジル・在アメリカ被爆者裁判を支援する会	2012年07月31日	「在ブラジル・在アメリカ被爆者裁判を支援する会」主催「在外被爆者を支援する集い（広島市中区福祉センター）」にて「在米被爆者の生活と願い」報告発表
6. 福島県社会福祉士会県北方部研修会	2012年02月25日	「福島県社会福祉士会県北方部研修会（福島県総合社会福祉センター）」主催「高齢化する在米被爆者とソーシャルワーク」報告発表
7. 福島県社会福祉士会県北支部研修会	2011年09月27日&2011年11月26日	「福島県社会福祉士会県北方部」主催「援助職支援のためのワークショップ講座（福島県総合社会福祉センター）」にて研修会講師
8. 大阪府保険医協会	2011年01月20日	「アジアの文化的価値観の役割：認知症患者を自宅介護する家族の場合」講師
9. 武庫川女子大学臨床教育学研究所臨床教育研究懇談会	2010年09月18日	「武庫川女子大学臨床教育学研究所」主催「臨床教育研究懇談会」にて「在外被爆者問題とは」講演
10. 武庫川女子大学「女性研究者研究活動支援事業」育児・介護支援部門	2010年02月～2015年03月	平成24年度「女性研究者研究活動支援事業」育児・介護支援部門サブリーダーとして本学の育児・介護ニーズ調査の実施、セミナーの企画運営、ガイドブック作成
<b>4 その他</b>		
1. にじいろのはな（非公認サークル）顧問	2016年06月～現在	武庫川女子大学非公認セクマイサークル「にじいろのはな」の活動支援

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. 「在米被爆者の語り」から：戦争が生みだす境界のはざままで	共	2013年02月	荻野昌弘編「戦争が生み出す社会I：戦後社会の変動と記憶」（pp. 157-189）新曜社	池埜聡・中尾賀要子 戦争が生み出す境界というテーマに基づき、在米被爆者が経験する不可視化された「境界」の存在を「家族」と「原爆責任論」の視点から考察した。文献レビュー、データ収集、構成を担当。
2. A Quest for Alternative Sociology	共	2008年04月	Trans Pacific Press, Australia	池埜聡・中尾賀要子 歴史と二つの祖国の間に立たされ、今も救済を求める在米被爆者の存在を明らかにしようと試みた。在米被爆者2名との直接インタビューの記録、老年学理論、移民史料、医学論文、戦争史等の文献を用いて、ケース・スタディアプローチを取り、多面的な角度から在米被爆者問題を考証。高齢化による在米被爆者の身体的、心理的、社会的問題の変容について言及。文献レビュー、データ収集、分析、構成、全文執筆を担当。英語論文。
<b>2 学位論文</b>				
1. Knowledge, Preferences, and Arrangement of End-of-life Care and Decision-making among Japanese American Older Adults	単	2009年06月	University of California, Los Angeles	Nakao, K. C. 在米日系人高齢者を対象にサーベイ調査を行い、遺言、代理人、延命治療、ホスピス、臓器提供、葬儀について、理解、好み、準備状況と、健康、価値観、死への意識といった各種要因との関係を仮説検証した。更に自由記述による質的データから、日系人特有とみられる死の捉え方を抽出。米国医療現場の主流である個人主義とは対極の家族での意思決定の重要性、死に関する福祉教育カリキュラム強化の必要性を示唆。英語博士論文。
<b>3 学術論文</b>				
1. 回想法研究へのリクルートとリテンションに関する一考察—鳴松会協力のもとに	単	2018年03月	武庫川女子大学教育研究所研究レポート, 48, 7-153.	中尾賀要子 鳴松会の協力を得て、2011年から4年に渡り実施した「日本版ガイドド・オートバイオグラフィ（Guided Autobiography）の妥当性検証」と題した回想法研究におけるリクルートとリテンションの経緯を整理し、高齢者を対象とした研究や実践の留意点を明らかにした報告。
2. 福島の三年目と復興—あるソーシャルワーカーへの追跡インタビューを通して（査読あり）	単	2016年03月	臨床教育学研究, 22, 3 5-51.	中尾賀要子 福島に生きる一人のソーシャルワーカーに対する追跡インタビューを通して、震災・原発事故発生からの3年間を後方視的に紐解き、現地に生きる対人援助職の今後の課題について考察したケース・スタディ。
3. 東日本大震災からの半年—福島のあるソーシャルワーカーの語りから（査読あり）	単	2014年03月	臨床教育学研究, 20, 1 9-31.	中尾賀要子 東日本大震災発生前から福島で住民支援に携わるあるソーシャルワーカーに焦点を当て、原発事故発生後の福島を生き抜く一人の対人援助職の震災前後を概観したケース・スタディ。
4. 在米被爆者協会分裂の要因分析と今後の援護課題（査読あり）	共	2013年11月	人間福祉学研究, 6(1), 47-68.	池埜聡・中尾賀要子 1965年に発足し非営利慈善団体として日米政府へのロビー活動を展開するまでに発展した「米国原爆被爆者協会(Committee of Atomic Bomb Survivors: CABS)」の内部分裂に影響を及ぼした要因を固有ケーススタディ法を用いて探索した。文献レビュー、分析、構成を担当。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
5. Examination of the psychometric properties of the Knowledge of Aging for Social Work Quiz (査読あり)	共	2013年10月	Educational Gerontology, 39(10), 761-771.	Nakao, K. C., Damron-Rodriguez, J., Lawrance, F. P., & Volland, P. J. アメリカの福祉教育用に作成された高齢期に関する知識評価尺度の妥当性と信頼性について、米国35のソーシャルワーク大学院修士課程在籍の481名の社会福祉大学院生のデータを用いて検証した量的調査。高齢者に特化した援助技術演習やコースワークが知識向上に影響することを示唆。尺度の信頼性は高いが妥当性に改善の余地が見られる為、改訂を提言。文献レビュー、データ収集、分析、構成、執筆を担当。英語論文。
6. 病児・病後児保育へのニーズの多様化に応じた政策のあり方 (査読あり)	共	2013年03月	臨床教育学研究, 19, 1-11.	西田千夏・中尾賀要子 保育所に子供を預ける保護者が求める社会支援の一つであるわが国の病児・病後児保育について、現行制度を実施施設、保護者、子供といったステークホルダーの観点から検証した。分析と構成、一部執筆を担当。
7. 高齢者に対する日本の回想法研究—文献レビュー(1992-2012) (査読あり)	単	2013年03月	臨床教育学研究, 19, 79-104.	中尾賀要子 日本国内で実施されてきた高齢者に対する回想法を概観すべく、1992年から2012年までに発表された回想法研究原著論文から40本を選定し、回想法による認知機能への影響及び主観的に論じた回想法の効果という中心的論題に基づいて分類した。
8. 高齢化する在米被爆者の実態調査—被爆による身体的、心理的、社会的影響の包括的理解と政策及び研究課題 (査読あり)	共	2009年11月	人間福祉学研究, 2(1), 73-86.	中尾賀要子・池埜聡 ライフコース・パースペクティブ、バイオサイコソーシャル・パースペクティブという老年学の概念的枠組みを用いて、在米被爆者の身体的、心理的、社会的実態を明らかにした量的調査日本語論文。高齢化が急速に進んでいる在外被爆者の現状を総体的に描くことで、援護政策の見直しと実態に即した支援の緊要性を指摘。またソーシャルワーク研究の今後の課題を提示。文献レビュー、データ収集、分析、構成、執筆を担当。
9. 在アメリカ被爆者の援護と研究課題—心理社会的視座からのアプローチ (査読あり)	共	2007年03月	関西学院大学社会学部紀要, 102, 85-100.	池埜聡・中尾賀要子 在米被爆者が直面する心理的、社会的問題について、ライフレビューインタビューを用いて探索した質的調査。米国生まれの日系人が被爆を経て戦後米国に戻り、現在に至るまでを振り返る中で語られた、在米被爆者としての思いとアイデンティティーを抽出。被爆者という立場故生じる日系社会、米国、日本との隔たりも浮き彫りとなった。今後の実践と研究課題について提言。データ収集、論文の構成を担当。
10. Cross cultural issues in caregiving for persons with dementia: Do familism values reduce burden and distress?	共	2002年Summer	Ageing International, 27(3), 80-93.	Knight, B. G., Robinson, G. S., Longmire, C. V. F., Chun, M., Nakao, K., Kim, J. H. 認知症患者を自宅介護するマイノリティー介護者のメンタルヘルスを取り上げ、ファミリーズム(家族中心主義)と介護負担感や介護鬱との関係を白人、アフリカ系、メキシコ系、日系、韓国系アメリカ人のデータを用いて行った量的調査。マイノリティー介護者間に、ファミリーズムによる介護鬱の抑制効果がみられた。日系人介護者に関するデータ収集、文献レビュー、分析、構成、執筆を担当。英語論文。

その他

1. 学会ゲストスピーカー

2. 学会発表

1. 終末期に対する文化的態度を測る試み：日系アメリカ人高齢者のサーベイ結果から	単	2017年11月01日	第76回日本公衆衛生学会総会・一般演題(示説)・かごしま県民交流センター	中尾賀要子 移民国家のアメリカでは、さまざまな価値観や信条といった文化的要素に関する医療従事者の理解と受容が求められている。本研究は、日系アメリカ人高齢者の終末期に関する文化的態度を測定する尺度の開発を目的とし、終末期に関する文化的態度を尋ねた質問14項目を作成し、南カリフォルニア在住の50歳以上の日系アメリカ人高齢者を対象としたサーベイの回答を基に探索的因子分析を行い、内的整合性を調べた量的調査の報告。
2. 日本版ガイドド・オートバイオグラフィーによる回想法とその効果—参加を終えた女性高齢者らの語りから—	単	2017年03月1日	日本社会福祉学会関西地域ブロック・関西社会福祉学会自由研究発表	中尾賀要子 最大8名までの少人数を対象とするグループ・ライフレビュー「ガイドド・オートバイオグラフィー (Guided Autobiography, 以下GAB)」の日本版を日本在住の高齢者に実施し、その体験について参加者の感想と意見を募り、その効果を参加者の視点と声から質的に分析し整理した(文部科学省科研費JP23530793)。
3. Knowledge, Preferences, and Arrangement of End-of-life Care and Decision-making among Japanese American Older Adults: Community Survey Findings (査読あり)	単	2010年11月	Paper presentation at the 63rd Annual Meeting of the Gerontological Society of America, New Orleans, LA.	Nakao, K. C. 在米日系人高齢者を対象に行ったサーベイ調査の記述統計発表。遺言、代理人、延命治療、ホスピス、臓器提供、葬儀について、理解、好み、準備状況と、健康、価値観、死への意識といった各種要因について性別、年齢区分、移民経緯による分類結果を報告した。
4. Social Work Knowledge of Aging	共	2009年11月	Poster presentation a	Nakao, K. C., Damron-Rodriguez, J., & Volland,

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
Quiz: Validation Outcomes and Future Refinement (査読あり)			t the 55th Annual Meeting of the Council on Social Work Education, San Antonio, TX.	P. 全米25のソーシャルワーク大学院に在籍中の学生データを用いて、社会福祉教育用に厳選した25問の高齢期に関する知識評価尺度 (Knowledge of Aging Social Work Quiz) のPre-Postデータによる妥当性と信頼性の検討。英語発表。
5. Traumas and transformational coping mechanisms among Japanese American Hiroshima/Nagasaki survivors (査読あり)	共	2008年11月	Paper presentation at the 24th International Society for Traumatic Stress Studies, Chicago, IL.	Ikeno, S., & Nakao, K. C. 在米被爆者における被爆体験に起因するトラウマとコーピングの変容について、在米被爆者23名のライフレビューデータを基に調査した質的研究。共通体験として国際情勢に絡んだ移民経験を抽出。重層的差別やトラウマの対処法として、「仕方がない」という特徴的なコーピングメカニズム、また、鮮明な記憶に残る戦争・原爆体験が、加齢と共に全人生経験を左右するイベントとして位置づけられていった過程を確認した。英語研究発表。
6. The experience/competence equation in geriatric social work education (査読あり)	共	2008年11月	Paper presentation at the 61st Annual Meeting of the Gerontological Society of America, National Harbor, MD.	Damron-Rodriguez, J., Nakao, K. C., Bachrach, P. S., Lawrance, F. P., & Volland, P. 老年社会福祉教育におけるCompetency-Based Educationは、個々の学生の今までの高齢者との関わりの上に成り立っている。本研究では、米国社会福祉大学院生のCompetencyの自己評価は、入学直後の場合、それまでの高齢者との交流頻度によって予測可能である一方、入学一年後には、老年学関係の履修数によって予測可能であることがわかり、老年社会福祉教育の重要性を示唆した。英語研究発表。
7. Field instructor assessment of students' geriatric competence: What they cannot assess (査読あり)	共	2008年10月	Paper presentation at the 54th Annual Meeting of the Council on Social Work Education, Philadelphia, PA.	Nakao, K. C., Damron-Rodriguez, J., Lawrance, F. P., & Volland, P. 社会福祉援助技術演習、特に高齢者関連施設の現場指導員の声を取り上げた調査は少ない。本研究では、指導員の担当学生に関する援助技術評価について取り上げ、現場評価不可能とされる実習分野について記述式統計方法を用いて検証した。臨床ケースは比較的评价できる機会が多いとしたものの、死に関するケースは非常に少なく、プログラムの予算編成やグラント申請の機会も学生には廻ってこない現状が浮かび上がった。英語研究発表。
8. Validation of the Practicum Partnership Program Geriatric Social Work Competency Scale II (GSWC Scale-II) (査読あり)	共	2008年01月	Paper presentation at the 12th Annual Meeting of the Society of Social Work and Research, Washington, D.C.	Nakao, K. C., Damron-Rodriguez, J., Lawrance, F. P., Volland, P., & Bachrach, P. S. 高齢者への社会福祉援助技術を自己評価するGeriatric Social Work Competency Scale-IIの妥当性と信頼性に関する研究発表。社会福祉大学院生257名のサーベイデータより、学生のデモグラフィック、コース履修、高齢者のためのボランティアや就労経験、老年期に関する知識などの相関関係を検証。自己評価点数と身内以外の高齢者との交流との相関関係があり、高い妥当性と信頼性が確認された。
9. Examination of the psychometric properties of the Knowledge of Aging for Social Work Quiz (KASW) (査読あり)	共	2007年11月	Paper presentation at the 60th Annual Meeting of the Gerontological Society of America, San Francisco, CA.	Nakao, K. C., Damron-Rodriguez, J., Lawrance, F. P., Volland, P., & Bachrach, P. S. 全米25のソーシャルワーク大学院に在籍中の学生257名のデータを用いて、社会福祉教育用に厳選した25問の高齢期に関する知識評価尺度 (Knowledge of Aging Social Work Quiz) の妥当性と信頼性の検証。老年学系コースの履修とボランティア経験の有無、また知識尺度の得点に相関関係が見られ、尺度の信頼性も確認された。今後の研究課題として、Pre-Postデータによる検証を提言。英語発表。
10. Falling through the cracks of two nations: Aging Japanese American A-bomb Survivors (査読あり)	共	2007年05月	Paper presentation at the 6th Hawaii International Conference of Social Science, Honolulu, HI.	Nakao, K. C., & Ikeno, S. 帰米と呼ばれる日系アメリカ人被爆者に焦点を当て、直接インタビュー、老年学理論、移民史料、医学論文、戦争史等の文献を用いたケーススタディアプローチにより、多面的な角度から在米被爆者問題を検証。在米被爆者のプロフィールとして高齢化による身体的、心理的、社会的問題の変容、現行の被爆者援護政策の限界、今後の研究指針について言及。学会及び学会参加者の特色を踏まえ、啓蒙目的で内容の構成に当たった英語発表。
11. The meaning of Hiroshima for "Kibei-Nisei": The post-traumatic adaptation processes among Hiroshima survivors of Japanese American Second Generation (査読あり)	共	2006年12月	Paper presentation at the 2006 International Conference for Social Work in Health and Mental Health, Hong Kong, China.	Ikeno, S., & Nakao, K. C. 重層的差別を経験してきた「帰米」と呼ばれる日系アメリカ人被爆者にとって、被爆体験とは何かという問いの答えを探索した質的研究の英語発表。被爆体験がその後の人生に与えた影響と、今尚困窮させる要因について検証。歴史的背景、コーピング、原爆体験から生きる意味への変容過程、また高齢化による身体的変化と援護政策のギャップを説明。学会及び学会参加者の特色を踏まえ、啓蒙目的で発表内容の構成に当たった。
12. ライフレビュー・アプローチに基づく在米被爆者（帰米二世）の外傷体験と価値変容に関する探索的	共	2006年10月	日本社会福祉学会第54回全国大会（埼玉）	池埜聡・中尾賀要子 高齢期を迎えた在米被爆者の被爆による外傷体験（トラウマ）がウェルビーイングに与える長期的影響の理解を試みた質的調査研究の日

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
研究（査読あり）				
13. 高齢化する在米被爆者（帰米二世）の身体・心理・社会的状況に関する実態調査（査読あり）	共	2006年10月	日本社会福祉学会第54回全国大会（埼玉）	本語発表。在米被爆者6名のインタビューデータより、移民経緯とライフイベントを抽出しながら、生存者罪悪感に加え、重層的差別、家族内世代間格差など、移民特有の現象を確認。更に、トラウマから被爆者として生きる意味の模索といった外傷体験の変容など、心裡社会的問題の所在を明らかにした。
14. Fostering intergenerational exchange: Community/University partnership primary thematic area: Intergenerational programs and issues（査読あり）	共	2006年03月	Workshop at the 2006 Joint Conference of the American Society on Aging and the National Council on the Aging, Anaheim, CA	中尾賀要子・池埜聡 米国南カリフォルニア地域在住の高齢化する被爆者の身体・心理・社会的状況の包括的理解と、日本政府による公的サービス及びプログラムのあり方についての提案を目指した日本語研究発表。被爆による長期的な健康への影響だけでなく、高齢化による健康面の変化、また悪化の不安を抱えながら暮らす米被爆者の実態を報告。本当に公的支援を必要としている在米被爆者へは届かないという矛盾を抱えた、現行の援護活動の限界を指摘。
15. Service utilization and barriers to service use among Chinese and Japanese American family caregivers of elders with dementia（査読あり）	共	2005年11月	Paper presentation at the 58th Annual Meeting of the Gerontological Society of America, New Orleans, LA.	Carpiac, M. L., Lee, S. E., Nakao, K. C., O'Byrne, K., Damron-Rodriguez, J., Wood, M. M., & Hammond, A. UCLA教養課程における老年学の授業を例に、通年の講義に加え、ディスカッションや課題の構成、また大学生をコミュニティーの高齢者関連施設にて一定期間研修させるサービスラーニングについて、ワークショップ型で発表。世代間交流を促進するためのコミュニティーと大学の協力体制をどのように具体化していくべきか、またその際の留意点を、ワークショップ参加者（主に大学教員ら）を交えて、参加型形式で検討・議論した。
16. Recruitment and retention of the ethnic minority elderly in gerontological research: Lessons learned from conducting life reviews and implications for practice（査読あり）	共	2005年03月	Poster presentation at the 2005 Joint Conference of the American Society on Aging and the National Council on the Aging, Philadelphia, PA.	Moon, A., Nakao, K. C., & Lee, S. E. 一般的に、マイノリティー、特にアジア系アメリカ人は、公的援助の必要性が白人に比べて高いにも関わらず、福祉サービス利用は白人に比べ極めて低い。更に民族別に見た移民歴の違いで、サービス利用に差があることがわかっている。本研究では、中国系と日系アメリカ人のアルツハイマー患者を自宅介護する介護者の抑鬱症状と福祉サービス利用度の違いを比較検討し、ソーシャルワーカーの役割について言及した。量的研究の英語発表。
17. The Effects of age and social network among the elderly in the face of natural disaster: Lessons from the Northridge Earthquake of 1994（査読あり）	共	2005年03月	Poster presentation at the 2005 Joint Conference of the American Society on Aging and the National Council on the Aging, Philadelphia, PA.	Kietzman, K. G., & Nakao, K. C. 地域に暮らすマイノリティー高齢者の、調査・研究活動への参加と協力の継続（リクルート&リテンション）について、自らの調査経験を振り返りながら、老年学におけるマイノリティー研究の現状を総評。民族ごとの歴史的背景や社会的特徴の把握と、研究者と実践家の相互協力の重要性を指摘。更に研究者へ文化的理解向上への尽力を提言。英語による共同発表。
18. Life history and well-being of elderly Japanese Americans（査読あり）	共	2004年11月	Poster presentation at the 57th Annual Meeting of the Gerontological Society of America, Washington, D.C.	Nakao, K. C., Edamura, C. M., & Wallace, S. P. 日系アメリカ人高齢者の強制収容所経験を中心としたライフレビューを通してウェルビーイングへの影響を検討した。英語による質的調査発表。
19. Meta-evaluation of long-term care policy: Collaborative efforts and future directions（査読あり）	共	2004年04月	Paper presentation at the 2004 Joint Conference of the American Society on Aging and the National Council on the Aging, San Francisco, CA.	Kietzman, K. G., Nakao, K. C., & Chung, G. 高齢化の進む米国において、ロングタームケア政策の重要性を指摘する声は多い。本研究は、米国ナショナルデータを使ったロングタームケア政策の研究論文を厳選し、メタ・アナリシスを行うことで、政策研究による総体的な示唆の把握を試みた。その結果、マイノリティー高齢者を視野に入れた研究が少なく、マイノリティーのロングタームケア・ニーズに合致しない政策提案に結びついていることが指摘された。英語による研究結果発表。
20. The role of Japanese cultural values in emotional distress among caregivers of persons with dementia（査読あり）	共	2003年11月	Poster presentation at the 56th Annual Meeting of the Gerontological Society of America, San Diego, CA.	Nakao, K. C., & Knight, B. G. 認知症患者の自宅介護者のメンタルヘルスについて、アジア系アメリカ人、特に日系アメリカ人に関する理解はほぼ皆無である。本研究では、文化的価値観や信条に注目し、日系人と日本人介護者の比較により、コーピング、負担感、抑鬱、不安に文化的要因が及ぼす影響について仮説検証を行った。負担感と不安は日本人サンプルの方が高く、抑鬱には文化的要素による抑制効果が両グループに見られた。英語による量的調査発表。
21. Ethnic differences in health a	共	2003年	Paper scheduled for p	Nakao, K., Lee, A. E. Y., & Lubben, J. E. 中国

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
nd health practices among the elderly Chinese and Japanese in Los Angeles (査読あり)			resentation at the 17th Asia-Pacific Social Work Conference, Nagasaki, Japan (The entire conference was canceled due to the SARS threat).	系アメリカ人高齢者及び日系アメリカ人高齢者の健康と健康維持活動に関する相違点を民族的視点から取り上げた。英語による量的調査発表。
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 広島地裁判決に接して感じたこと、考えたこと	単	2015年7月	在ブラジル・在アメリカ被爆者裁判支援ニュース, 36, 15-16.	中尾賀要子
2. 在外被爆者医療費裁判勝利	単	2015年10月	在ブラジル・在アメリカ被爆者裁判ニュース, 37, 24-25.	中尾賀要子
3. 在米被爆者の生活と願い	単	2012年12月	在ブラジル・在アメリカ被爆者裁判支援ニュース, 31, 7-9.	中尾賀要子
4. Global Aging Report (日本版)	共	2010年3月25日	国際長寿センター (ILC-Japan)	2009年刊行のGlobal Aging Report (英文版) の日本語翻訳編者。ドミニカ共和国及びイスラエルの章について翻訳校閲を担当。
5. 在米被爆者とアメリカの医療制度	単	2010年11月	福祉のひろば, 12, 68-69.	中尾賀要子
6. 高齢化する在米被爆者	単	2010年04月	月刊福祉, 93(5), 90-93.	中尾賀要子
7. 高齢化する在米被爆者	単	2010年03月	月刊福祉, 93(4), 90-93.	中尾賀要子
8. 高齢化する在米被爆者	単	2010年02月	月刊福祉, 93(3), 88-91.	中尾賀要子
9. Practicum Partnership Program (PPP) Adoption Initiative Multi-Site Evaluation Report April 2005 - September 2007.	共	2007年09月	The New York Academy of Medicine Social Work Leadership Institute, New York, USA.	Damron-Rodriguez, J., Lawrance, F. P., & Nakao, K. C. PPP参加大学35校の参加学生と参加大学概要に関する英語報告書。学生の老年に関する知識、援助技術力評価、デモグラフィック、及び大学規模、教員数などの総合情報を分析、執筆を担当。英語研究報告書。
10. Practicum Partnership Program (PPP) Individual Site Report April 2005 - September 2006.	共	2006年12月	The New York Academy of Medicine Social Work Leadership Institute, New York, USA.	Damron-Rodriguez, J., Lawrance, F. P., & Nakao, K. C. PPP参加各校へ、参加学生に関する詳細を記述的にまとめた英語研究報告書。援助技術力（自己評価および指導者評価）、学生の老年に関する知識、また学生のデモグラフィックなどを分析、執筆担当。英語研究報告書。
11. Practicum Partnership Program (PPP) Adoption Initiative Multi-Site Evaluation Report April 2005 - September 2006.	共	2006年11月	The New York Academy of Medicine Social Work Leadership Institute, New York, USA.	Damron-Rodriguez, J., Lawrance, F. P., & Nakao, K. C. 米国ソーシャルワーク大学院10校の情報（大学規模、学生数、教員数、社会福祉援助技術演習指導員数等）についての分析と執筆を担当。英語研究報告書。
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 基盤研究 (C) 新規 災害ソーシャルワークモデルの構築—被災地ソーシャルワーカーの語りと対話から	単	2018年～2022年 (予定)	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業	本研究の目的は、日本各地の被災地のソーシャルワーカー (SW) による語りと対話を通して、災害ソーシャルワークのモデルを構築し検討することである。自らも災害に揺さぶられたSWの被災体験だけでなく、支援者としてのこれまでの軌跡を俯瞰した質的データを収集する予定である。
2. 基盤研究 (C) 新規 日本版ガイドド・オートバイオグラフィの妥当性検証	単	2011年から2015年3月まで	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業	欧米諸国において30年以上に渡る実践の歴史がある体系的回想法「ガイドド・オートバイオグラフィ (Guided Autobiography, 以下GAB)」日本版の実践モデルの妥当性を検討すべく、本国在住者を対象としたGAB参加者の心理社会的ウェルビーイングの変化を調べ、研究と実践に資する日本版GABを使用した実践モデルの構築を目指す研究。
3. 福島原発後の社会福祉士の立場と役割に関する研究	単	2011年から2013年まで	武庫川女子大学 特別研究	福島に拠点を置く社会福祉士を対象とした調査インタビューを実施し、関連資料を収集した。ケーススタディアプローチを用いた質的データ分析を行い、臨床教育学研究にて原著論文発表。

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2017年～現在	認定特定非営利活動法人ウィメンズ アクション ネットワーク (WAN) 会員
2. 2017年～現在	日本ソーシャルワーク学会

学会及び社会における活動等

年月日	事項
3. 2017年～現在	日本公衆衛生学会 会員
4. 2010年～現在	「在アメリカ・在ブラジル被爆者裁判を支援する会（広島）」会員
5. 2006年～現在	日本社会福祉学会 会員
6. 2005年～現在	「North American A-bomb Survivors Association（カリフォルニア州）」ボランティア